

## 平成25年度第3回川崎市政策評価委員会 摘録

- 1 開催日時 平成26年1月27日（月）午前11時00分～12時00分
- 2 開催場所 川崎市役所第4庁舎4階第4会議室
- 3 出席者 委員 垣内委員長、川崎副委員長、野口委員、生駒委員、米原委員、浅野委員、戸田委員、能條委員  
事務局 総合企画局都市経営部 金子部長  
総合企画局都市経営部企画調整課 中村課長  
総合企画局都市経営部企画調整課 久万担当課長  
総務局行財政改革室 三田村担当課長  
総合企画局都市経営部企画調整課  
対馬担当課長、青木担当係長、小西職員

### 4 議 事

- (1) 市民意見募集の結果について（報告）
- (2) 平成25年度施策評価の検証等について（案）
- (3) その他（スケジュール等）

- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容

#### 議事（1）市民意見募集の結果について（報告）

（意見等特になし）

#### 議事（2）平成25年度施策評価の検証等について（案）

垣内委員長）事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。これまでの委員としての経験からすると作業量は比較的多いため、3月にももう一度会議があるが、御意見や希望等があれば発言いただきたい。

また、事務局から説明があった中で、重要な点が二つあるため念を押しておきたい。一つ目は、今期の委員会での作業は、今年度（平成25年度）の施策評価になるが、平成25年度は第3期実行計画の最終年となるため、評価結果のフィードバックは、次年度の施策評価に反映するのではなく、新たな総合計画の策定及びそれに基づく新たな進行管理・評価制度の立案に向けて活用することになるという点。

二つ目は、各委員が担当する施策課題は、1名あたり30施策となっており、

検証マニュアル等に基づき施策評価を実施するということである。  
こういった作業をする前提に御質問等があれば御意見いただきたい。

野口委員) 評価の手法については、昨年話し合い精査したと思うが、今年度の評価は  
昨年度の評価の手法を踏襲するというだけでよいのか。

対馬担当課長) 基本的には、昨年度の評価手法で大きな問題はないと考えているが、  
今の時点で改善点等があれば、委員長と相談して今年度の評価手法に取り入  
れることも可能である。

垣内委員長) これまでの評価手法は少しずつ改善してきており、昨年は資料2-5の  
とおりチェックシートを変更し、各委員からの意見は好評であった。今回は、  
第3期実行計画の最終年でもあり、継続性も踏まえると昨年のやり方で行う  
形がよいと思うが、皆様の御意見を伺いたい。

川崎副委員長) 私としては、この検証マニュアルは良くなってきていると認識してい  
る。一つ確認したいが、これから各所管課が、施策進行管理評価票を入力す  
る形になると思うが、この検証マニュアルは所管課の手元に渡っているのか。

対馬担当課長) 渡す予定である。

川崎副委員長) ぜひ、我々がこういった視点で評価しているということを周知してい  
ただきたい。

米原委員) 外務省の2次評価を行ったときも、同じようなフォーマットで評価を行っ  
たが、どうしても2次評価を行うと評価者間で、評価結果に差が出てきてし  
まうが、そういった際は評価結果の調整を行うのか。

対馬担当課長) 以前の検証マニュアルは、評価者によっては解釈が異なってしまうよ  
うな内容であったため、2人の委員の評価結果に違いが出てしまうこともあ  
った。そのため、資料2-5チェックシートのように項目ごとに点数化し、  
評価結果にあまり差が出ないよう改善した経緯がある。それでも結果に差が  
出る場合は、物事の多様性があつたり、評価者が色々な考え方を持っている  
ということであると捉え、同じ結論になるよう調整を行うようなことは行っ  
ていない。

垣内委員長) どうしても評価結果が異なってしまうことがあったが、これは各委員の経験や専門分野が異なることから、仕方のないことであり、異なる評価結果に対して調整を行ってはこなかった。ただし、あまりにも大きく評価結果がかけ離れる場合は、評価基準が曖昧であることが原因であると考えられたため、今までの委員会の中で、評価担当の割振りを代えたり、評価の視点について議論し、課題解決することで改善を図ってきた経緯がある。

対馬担当課長) 今回新しく委員が入れ替わり、今までの評価結果やコメント等が参考になると思われるため、実際に検証作業をお願いする際には過去のチェックシートの実例を参考にお配りする予定である。

能條委員) この委員会での評価の対象は、261の施策課題の中で、重点戦略プランに関連がある120の施策課題としている。継続性の観点からそれらの評価を行うことは分かるが、評価を行っていない他の施策はどうなっているのか。

対馬担当課長) 全ての施策を評価することは莫大な時間を要するため、バランス面から重点的なものを評価して、それを他の施策に反映させる形が望ましいと考えている。

生駒委員) 今回の施策評価に対する検証結果のフィードバックは、新たな総合計画の策定及びそれに基づく新たな進行管理・評価制度の立案に向けて活用することになるという説明があった。昨年の委員会でも、委員から提示された様々な指摘や意見を、新たな総合計画の内容や策定プロセスに反映させていくことが重要であるとのまとめがされたと記憶している。新たな総合計画策定に向けた現在の検討状況について教えていただきたい。

対馬担当課長) 昨年の11月で市長が代わり、新たな総合計画を策定していくという方針は出している。昨年の委員会でも議論のあった、アウトカム指標の設定など明確化した目標を総合計画に組み入れていかなければいけないという根本的な認識は、総合計画や進行管理を担当する職員は持っており、市長も同様の認識を持っている。現在は、今まで委員会からいただいた御意見をバランスよく総合計画や進行管理に反映させるため、準備しているところである。

生駒委員) 進行管理を含めた新たな総合計画の策定の考え方は、既に枠組みが固まっているという訳ではなく、時間をかけながら、本委員会の実施する平成25年度施策評価の検証と並行的に検討されていくイメージか。

対馬担当課長) 進行管理や評価制度は、他都市を見るとトレンドが見えてくるが、市長の政策的な影響も非常に色濃く出てくる。市長がどういう形で進行管理・評価を選択していくか、そういったところも踏まえて、市民の方に市政が分かりやすく、効果が見えやすい制度を構築していくことが重要と考えている。

### 議事(3) その他(スケジュール等)

(意見等特になし)